

**■ PCN だより****PCN Volume 63, Number 1 の紹介 (その 2)**

先月号では、2009年2月発行のPCN Vol. 63, No. 1に掲載されている海外からの論文について内容を紹介した。今回は、日本国内からの論文について、著者をお願いして日本語抄録をいただき紹介する。

**Regular Article**

1. Normative data on Benton Visual Form Discrimination Test for older adults and impaired scores in Clinical Dementia Rating 0.5 participants: Community-based study. The Osaki-Tajiri Project

*M. Kasai, J. Ishizaki, H. Ishii, S. Yamaguchi, A. Yamadori and K. Meguro*

Benton 視覚弁別検査 (Benton Visual Form Discrimination Test) における、健常高齢者の標準データと CDR 0.5 高齢者の障害の特徴について：地域ベース研究。大崎-田尻プロジェクト

【目的】ベントンの視覚弁別検査 (Benton Visual Form Discrimination test; VFD) は、複雑な視覚形態を弁別する能力を評価する、非言語性検査の一つである。この研究の目的は、Clinical Dementia Rating (CDR) 0.5 高齢者を厳密に除外して、健常高齢者における VFD への年齢と教育年数の影響と、CDR 0.5 高齢者における VFD の特徴を調べることであった。【方法】CDR 0 (healthy elderly) 対象者は 597 名、CDR 0.5 (mild cognitive impairment) 対象者は 161 名、CDR 1&2 (dementia) 対象者は 31 名であった。これらの対象者に、神経心理学的検査として、VFD、数唱 (順唱)、数唱 (逆唱)、

Rey - Osterrieth Complex Figure Test (RCFT) コピーを行った。【結果】健常高齢者において、VFD への有意な年齢、教育年数効果が認められた。また、CDR 0.5 群は CDR 0 群よりも有意に VFD の得点が低く障害されていた。VFD の得点低下は、CDR 0 対象者、CDR 0.5 対象者とも、数唱 (逆唱) および RCFT コピーと有意に関連していた。【考察】CDR 0.5 対象者は、注意、視覚構成、まとめあげる能力に関連した視覚弁別能力が低下していると考えられた。

2. Use of questionnaire infeasibility in order to detect cognitive disorders: Example of the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale in psychiatry settings

*T. Nishiyama, N. Ozaki and N. Iwata*

認知障害の発見に向けた質問紙検査の施行不能情報の利用

【目的】20 項目版および 10 項目版 Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) の施行可能性と正確性に対して認知障害がどのくらい影響を及ぼすかを調べる。【方法】精神科クリニックの初診患者 223 人と総合病院精神科の初診患者 108 人に対する横断研究を行った。両 CES-D の施行可能性に対して認知障害の有無・年齢・性別が与える影響を評価するため、施行可能かどうか自体を従属変数とした多重ロジスティック回帰解析を行った。また、両 CES-D の正確性の評価には receiver operating characteristic (ROC) 分析を行った。【結果】両 CES-D を施行できないことは認知障害の指標として使

用可能なくらい強く認知障害の有無と関連していた。さらに精神科外来における10項目版CES-Dの内部一致信頼性は20項目版と同じくらい高かった。【結論】精神科外来で両タイプのCES-Dを施行不能であることを認知障害の指標として用いることによって、この尺度から得られる情報の完全利用が可能となった。CES-Dと同程度の認知的負荷をはたす他のスクリーニング尺度も認知障害の指標として同様に使用可能であり、認知症向けのスクリーニング尺度の必要性が省けるかもしれない。このような質問紙の使用法によって臨床現場での患者と医師双方の負担を減らすことができる。

### 3. Neuropathy is associated with depression independently of health-related quality of life in Japanese patients with diabetes

S. Yoshida, M. Hirai, S. Suzuki, S. Awata and Y. Oka

日本人糖尿病患者において神経障害は健康関連QOLとは独立に抑うつに関連する

【目的】想定できる交絡因子を統制して、日本人糖尿病患者において抑うつに関連する独立因子を特定した。【方法】197人の糖尿病外来患者のうち129(タイプ1:24, タイプ2:105)人が社会人口統計学的変数と健康関連変数に関するアンケート調査を受けた。Zung's Self-Rating Depression Scale (SDS)を用いて抑うつのスクリーニングを行った後に、熟練した精神科医が半構造化面接によるDSM-IV診断を行った。【結果】47人(36.4%)の患者に症候学的な抑うつが認められた。SDSにおける40点のカットオフポイントはDSM-IVの大うつ病エピソードの検出に良好な感度(100%)と控えめな特異度(59%)を示した。抑うつを持つ患者は、抑うつを持たない患者に比べて、神経障害・網膜障害・疼痛を伴いやすく、全般的健康感が低く、社会的支援が少なかった。しかし、年齢、性別、婚姻状況、糖尿病のタイプ、インスリンの使用、糖尿病罹病期間、

HbA<sub>1c</sub>、腎障害には差異が認められなかった。多変量ロジスティック回帰分析では、疼痛(OR 3.26, 95% CI 1.31-8.08)と微小血管合併症(OR 2.81, 95% CI 1.13-6.98)が独立に抑うつに関連していた。特に糖尿病性神経障害(OR 3.10, 95% CI 1.17-8.22)は年齢、性別、婚姻状況、社会支援、QOL、糖尿病のタイプ、糖尿病罹病期間、HbA<sub>1c</sub>、インスリンの使用とは独立に抑うつと関連していた。【結論】糖尿病合併症、特に神経障害は、糖尿病患者の抑うつに独立に関連する。今回の結果は糖尿病の抑うつと糖尿病性神経障害の両者に共通する生物学的な基盤を究明する必要性を示唆している。

### 4. Health impact of disaster-related stress on pregnant women living in the affected area of the Noto Peninsula earthquake in Japan

Y. Hibino, J. Takaki, Y. Kambayashi, Y. Hitomi, A. Sakai, N. Sekizuka, K. Ogino and H. Nakamura

能登半島地震によるストレスが被災地の妊産婦に与えた健康影響

【目的】能登半島地震によるストレスが被災地の妊産婦に与えた健康影響を評価すること、及び地震ストレスに対する妊産婦の抵抗性を評価することが研究の目的である。【方法】地震時に妊娠していた妊産婦を対象としたパネル調査により得られた、出産前後の対応が取れたデータ(n=99)を分析に用いた。回収率は77.9%であった。精神的健康はエジンバラ産後うつ尺度(Edinburgh Postnatal Depression Scale; EPDS)、ストレス抵抗性はストレス対処能力(Sense of Coherence; SOC)を用いて評価した。【結果】妊娠中に地震への不安を抱いたこと( $\beta=0.27$ ,  $P=0.01$ )、出産経験のないこと( $\beta=-0.26$ ,  $P=0.02$ )が、産後のうつ得点の上昇と有意に関連していた。妊娠中のSOC得点は妊娠中に抱いた地震への不安が産後のうつ得点に与える影響を有意に緩衝していた( $\beta=-0.21$ ,  $P=0.02$ )。

妊娠中のうつ得点は妊娠出産時の異常と有意に関連していた（多変量オッズ比：1.21；95％信頼区間：1.04-1.41）。【結論】十分な支援システムの整備と、若い女性のストレス対処能力の向上が、

被災地の母親のウェル・ビーイングを地震ストレスから守るために必要であると考えられた。

（精神神経学雑誌編集委員会）

---